

そうもくくようさい

草木供養祭

開会の言葉 司会 副会長 新倉孝之

会長挨拶 草木塔を建てる会 会長 小島政孝様

経過報告 小島政孝様

読経 小野山萬松寺住職 柴崎信洋様

(焼香)

草木塔祝いの漢詩披露 柴崎信洋様

来賓祝辞 衆議院議員 小倉將信様

来賓祝辞 町田市立博物館学芸員 佐久間かおる様

祝辞 地元代表 小島 寔様

閉会のことば 事務局長 高橋文利様



草木塔とは

草木塔は、米沢藩主上杉鷹山が、安永9年（1780）7月19日に現米沢市大字入田沢字塩地平地蔵尊堂前に自然石で建てたものが、日本で一番古い草木塔といわれている。上杉鷹山が建てた理由については、

1) 安永元年(1772)に江戸の藩邸が焼失し、その再建のため、米沢の山林の木を伐採した。2) 安永9年に米沢で大火があり、その復興で米沢の大量の樹木を伐採した。

このことに対する感謝の念が建立のきっかけになったと推量される。自然石で、高さ112cm 幅42cm 厚さ22cmである。置賜民俗学会 会長梅津幸保氏は、『草木塔を訪ねる』の著者で、多くの草木塔を調査されています。梅津氏の調査によると、日本には、215基あり、そのうち180基が山形県にあります。（別表参照）そのため、関東でも草木塔はあまりなじみがありません。東京都には、世田谷区桜上水の蜜蔵院、同区等々力の不動尊、狛江市元和泉の泉竜寺、大田区南馬込の長遠寺、目黒区八雲の常圓寺、世田谷区用賀の無量寺、大田区久ヶ原の安詳寺、八王子市高尾山薬王院、葛飾区柴又の柴又帝釈天、豊島区西巣鴨の大正大学、そして、日本で一番古い町田市小野路町の嶋野氏宅のもの、そして今回建立した小野路町万松寺谷の草木塔と、東京都の草木塔は、12基になりました。現在、小野路町には、日本で一番古い草木塔と、一番新しい草木塔があることになりました。

経過報告

小島 政孝

平成 30 年 4 月頃に私の家に高山譲二氏が来訪され、小野路に「草木塔」を建てたいと話されました。平成 31 年 1 月に高山さんが来訪されたときに、石を寄贈していただけることになったから、ぜひ、「草木塔」を建てたいので協力してくださいと頼まれました。其れは、よいことなので協力しましょうと話しました。そして、具体的に話を進めるために、同意をいただいた方に声をかけて、第 1 回の会合を、1 月 24 日に小野路宿里山交流館で開き、趣意書の確認、会の名前を「草木塔を建てる会」とすること、会長小島政孝、副会長新倉孝之、事務局長高橋文利と決まりました。草木塔の石は、大理石の高さ 180 センチメートルの石を寄贈していただくことになったが、これでは自然にそぐわないので、却下され、別の石を探すことと、地元の人が少ないので、賛同者を増やすことが難された、その後、峯岸幸夫氏が多くの石を持っていて、寄贈していただけることになった。石屋さんは、小島寔氏から小野路出身の小宮昭作氏を紹介していただいた。草木塔設置場所については、1、小野神社境内、2 鎌倉古道の宿の裏山、3、万松寺谷の環境保全区域の案があった。

東京都に相談に行ったが、保全区域内は、工作物の設置は禁止ということで、区域外の柴崎四子氏の所有地に建てることになった。第 2 回の会合は、3 月 22 日に交流館で開催した。碑の文字については、新年号の 5 月 1 日とすること。建碑費用と協賛金について、供養祭の日を 5 月 18 日と決定した。2 月に嶋野幸男氏宅から元文の年号のある草木塔が発見され、4 月 17 日に記者会見を交流館で行った。報道機関 5 社が取材に来られ、旧と新の草木塔を案内しました。翌日、読売新聞と朝日新聞が報道された。その後、草木塔の字が彫られた。5 月 1 日に令和元年特集号で、タウンニュースで紹介され、町田ジャーナルは、5 月 15 日号で報道していただいた。多くの人の協力によって、新草木塔が建立され、心から感謝申し上げます。未来に向かって、純粋に自然を大切にすることを伝えていきたいと思えます。

草木塔（そうもくとう）建立趣意書

草木塔を建てる会 会長 小島政孝

昔の人達は飢饉のときは、小野路村の山野に自生する草や青物（野菜）や木から食物をとり、命をつないできた。小野路村の全面積の半分は山林であった。山菜からキノコ類、野菜や木の実まで自然が与えた重要な食べ物だった。また、小野路村では雑木林が多く、大量の炭を焼いて江戸に販売した。また、畑には桑を植え、蚕を育てて繭をつくり販売した。これらは重要な産業でした。現在では、過去のこととして忘れられているが、自然の恩恵に感謝することは重要なことである。

現在は、急激な人口増と社会の発展によって、自然の緑地も極端に減って、地球の気候は温暖化のためそのバランスが崩れています。大型台風の襲来や、局地的な集中豪雨のような、異常気象が続き大きな災害が毎年世界で起きています。先人たちが築いてきた「自然を大切にする心」は、現在から未来にかけて、もっとも伝えていかなければいけない大切なメッセージです。「草木塔」の意義を再認識することが重要です。また、小野路町において今回、日本でもっとも古いと思われる「草木塔」が発見された。また、新元号の令和となり、心も新たに「未来に自然を大切にすることを伝える」ために、多摩ニュータウンを背後にひかえ、現在に里山を残すこの地、図師小野路歴史環境保全区域の入り口に、自然に対して感謝の念をもって、草木塔（供養碑）を建てる。

（建碑の地は、臨濟宗小野山萬松寺の近接の柴崎四子氏の所有地）

嶋野家の元文（げんぶん）の草木塔

置賜民俗学会 会長梅津幸保氏が令和元年5月1日に来訪され、嶋野幸男氏の草木塔と嶋野家の墓地を拝観された。梅津氏からのお話を紹介する。

元文年間のもものと判明し、確認されているものでは最古のものと思いました。嶋野さんの先祖の墓誌に「仏心宗」とあるのが大きな手がかりとなると思います。禅宗のことをいうとあり、一仏成道観見法界草木国土悉皆成仏という経文を解かれて、自然の恵みに感謝し、草木にも命があり、それを絶って我々は生かされているという思想に基づいているものと思います。民衆に仏教が流布した証しといえます。大事にしていきましょう。先人の業績に学びましょう。この度、環境保全区域の入口に新草木塔が建立開眼されましたこと、誠にお目出とうございます。現在は、自然愛護や、環境保全のシンボルとして、建立されるのが多くなりました。自然を大切に作る心が人々に伝わるよう、啓発シンボルとなります。

追記 小島政孝

元文は、元年～6年（1736～1741）までで、上杉鷹山公が建てた草木塔、安永9年（1780）より、約40年古いことになり、日本で一番古い草木塔となる。元文の前の享保6年には浅間山の噴火があり、11年、13年には、百姓一揆が起こり、17年には蝗（いなご）が大発生して大飢饉になっている。このような不穏な年が続いたため、小野路村でも食糧事情が悪く、苦勞したと思われる。また、嶋野家の墓碑では、初代の人幸右衛門（僧か？）が延享4年（1747）に亡くなっているのが、草木に感謝して「草木塔」の字を自分で彫って建てたと推測される。現在は、嶋野家の墓地入り口の道路脇に建てられている。

草木塔の心～自然の恵みに感謝し、草木を供養する～

(置賜民俗学会 梅津幸保) H 3 1, 4

はじめに

- ・佐藤忠蔵氏の調査～米沢営林署長との話題 (協力者渡部英俊 H25 秋発見) 昭和29年7月15日発行羽陽文化第23号～緑化文化の草木供養塔として9基紹介 (田沢5基、築沢1基、万世1基、中津川岩倉方面2基)。
- ・草木塔とは
草木供養塔または草木塔と刻まれた石造物で、草木の命を絶っていかされていることの供養と自然の恵みに感謝したといわれるもので置賜地方特有の民間信仰である。(木流し)
- ・1601年(慶長6)上杉家6千余騎の入部による城下の暮らし大きな変化。

1 草木塔に刻まれているもの

① 年号から見えるもの

・江戸時代 34 基・明治大正時代 22 基・昭和時代 19 基・平成時代 129 基

② 草木供養塔と草木塔

草木供養塔～建立初期 (1780 安永9年) から現代も
草木塔～1823 (文政6) 年から。飯豊町はすべて草木塔

③ 建立者もさまざま～ 村中が一番多い。集落ごとの信仰。

④ 建立月日～ 特定の日はない。8月が少し多い (盂蘭盆)。

⑤ 梵字と経文

バン、パク、ウンなど。一仏成道観見法界草木国土悉皆成仏

⑥ 導師名のあるもの～瑞林寺 (真言宗醍醐派)。東原寺 (廃寺)。

2 建立場所

・路傍 (川添)、神社境内など。平成になってから公園や学校が多い。

3 草木塔の材質

・自然石が多い。川西町に墓石型が多い。

4 幻の草木塔

・飯豊町中津川字小阪上覧橋ふもとの草木塔 (明治18年建立)

昭和42 (1967) 年8月羽越災害豪雨で流失

5 幸運な草木塔

・米沢市赤芝町大樽川河川工事で川底から見つかった草木塔

平成5年3月5日 (1801 享和元年建立)

6 草木塔のふるさと米沢～全国に発信 (なせばなる秋まつり～草木塔祭)

・江戸時代建立のもの12基を米沢市有形民俗文化財に指定。平成24年

3月29日 (平成9年に5基指定)。計17基。今後県、国の文化財に。

※1 草木塔が辞書に載る (広辞苑第6版) ※2 元文年間の発見で研究広がる

※3 現在は自然保護や環境保全のシンボルとなる。

全国地区別草木塔の分布

草木塔の心～自然の恵みに感謝し、草木を供養する～

江戸時代に建立された草木塔が置賜地方、山形県内と普及し、今では全国各地で建立されるようになった。全国の分布は下表の通りである。

2019(平成31)4月末 置賜民俗学会梅津幸保調べ

区分	江戸時代	明治 大正	昭和	平成	合計	備考	
置賜 地方 (旧 米沢 藩)	米沢市	17	4	4	22	47	
	川西町	9	6	2	7	24	木製1
	飯豊町	5	8	3	9	25	(流失1)(破損1)
	南陽市	1	—	—	3	4	
	高島町	—	3	—	3	6	
	白鷹町	—	1	1	4	6	
	長井市	—	—	—	4	4	
	小国町	—	—	—	2	2	
計	(32)	(22)	(10)	(54)	(118)		
他山 形県	村山	—	—	4	45	49	山形20、山辺12他
	庄内	—	—	1	7	8	
	最上	—	—	—	5	5	新庄3、最上1、金山1
	計	—	—	(5)	(57)	(62)	
山形 県以 外	岩手	1	—	—	1	2	
	福島	1	—	—	2	3	
	宮城	—	—	1	4	5	(不明1)
	東京	1	—	3	7	11	
	その他	—	—	—	14	14	奈良4、富山2他
	計	(3)	—	(4)	(28)	(35)	
外国	パラグ アイ	—	—	—	(2)	(2)	日本人開拓村
合計	35	22	19	141	217		

※1 このほか群馬県片品村に片品草木塔(木柱にブロンズ花がはめ込まれている)が10基ある。

※2 県外のその他には長野、山梨、京都、神奈川、栃木、埼玉、石川、愛知にあり各県1基建立されている。

※3 類似塔に大木大明神、大杉大明神、梨子大明神、りんご木供養塔、松之木供養塔、材木供養塔、財木供養塔、竹供養などもある。

※4 山形県西川町にアートな草木塔が建立された。

江戸時代の草木塔

(米沢)



1780(安永9年) 塩地平 112cm



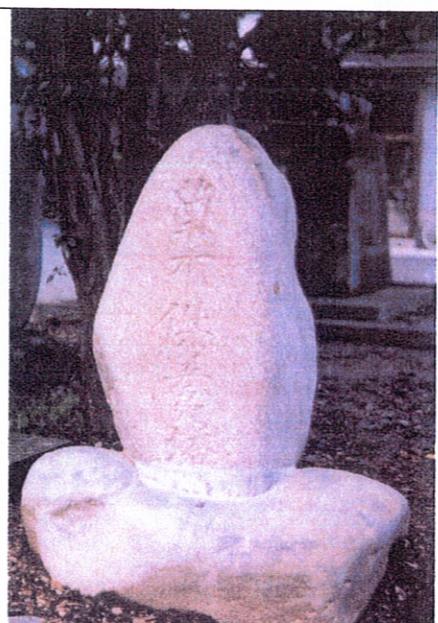
1780(安永9年) 大明神沢 110cm



1797(寛政9年) 白夫平 85cm



1800(寛政12年) 上屋敷 86cm



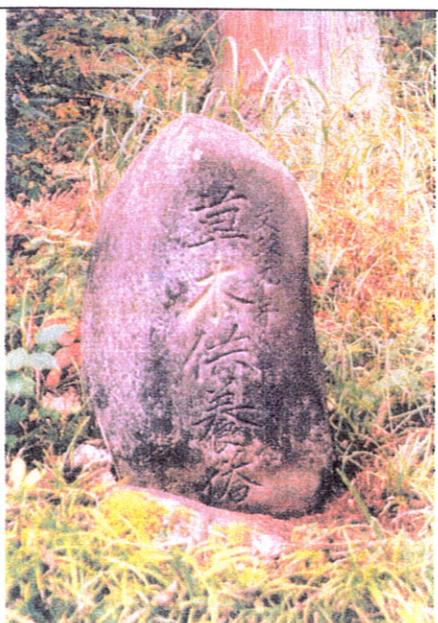
1801(享和元年) 赤芝 115cm



1807(文化4年) 戸長里 85cm



1816(文化13年) 糸畔 122cm



1818(文政元年) 大荒沢 83cm